

Golden Star

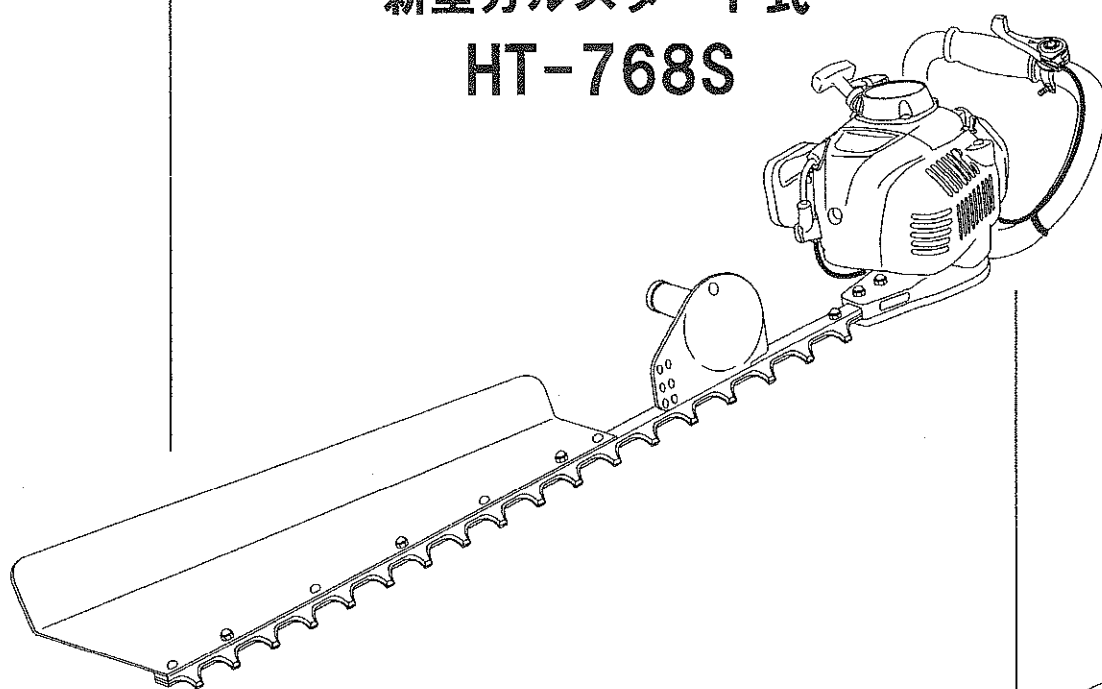
ゴールドデンスターヘッジトリマー

取扱説明書

ゴールドデンスター ヘッジトリマー

新型カルスタート式

HT-768S



お買い上げありがとうございました。



- この取扱説明書は、いつでも使用できる所に大切に保管してください。
- ご使用前に、まずこの取扱説明書をよく読まれ、本機の機能をご理解の上、正しく安全に使用くださるようお願い致します。

目 次

	項
1. 安全にお使いいただくために	1~2
2. 各部の名称及び危険・警告ラベル貼付位置	3
3. 仕様	3
4. エンジン始動前の点検	4
1) 燃料	4
2) 燃料混合	4
3) 燃料給油	4
4) 各部の締め付けの点検	4
5) 刈刃すき間の点検	5
5. エンジン始動・停止	5
1) 始動	5
2) 停止	5
6. 作業方法	6
7. 点検・整備・調整	6
1) 刈刃のすき間調整	7
2) 刃の研磨	7
3) グリースの補充	7
4) スロットルケーブルの調整	7
5) タンクキャップの点検と清掃	7
6) 燃料フィルタの点検と清掃	8
7) エアクリーナの点検と清掃	8
8) 点火プラグの清掃	8
8. 長期間保管する場合	8
9. 本機の異常と対策	9

1. 安全にお使いいただくために

この取扱説明書では『危険』『警告』『注意』の警告事項について、次のように定義しています。

 危険	・ 誤った取扱いをした時に、 <u>重傷または死亡につながる重大事故が発生する可能性があるとき</u>
 警告	・ 誤った取扱いをした時に、 <u>重大な傷害を受ける事故が発生する可能性があるとき</u>
 注意	・ 誤った取扱いをした時に、 <u>軽傷または中程度の傷害をうけ、財物の損壊等につながる事故が発生する可能性があるとき</u>

本機のご使用前に、以下の危険、重要警告及び注意事項をよくお読みいただき、理解し必ず守って下さい。

⚠ 危険

人が死亡または重大な傷害を負う場合がありますので、絶対にやめて下さい。

1. エンジン回転中に、刃部には手・足等身体を近づけないでください。



⚠ 危険

エンジン回転中は刃部に手足等、身体を近づけないで下さい。

2. 足元が悪い場所での作業はしないで下さい。

・安定した作業姿勢の保持が困難な場所での作業（使用）をされますと、バランスを保つことができず、転倒し事故が発生する恐れがあります。

3. 作業中は事故防止の為、作業範囲を危険区域とし、この中に作業者以外の人が入らないようにロープで囲う、立て札を立てる等の警告をして下さい。また、数台同時に作業する時も人と人の間隔は十分保って下さい。

4. 未成年の方による操作は、保護者の監督下でない限りおやめ下さい。

5. 本機の操作方法をご存じない方、または理解出来ない方には使用させないで下さい。

6. 本機の取扱いの指導を受けていない人や扱いに不慣れな人には、本機を貸さないで下さい。

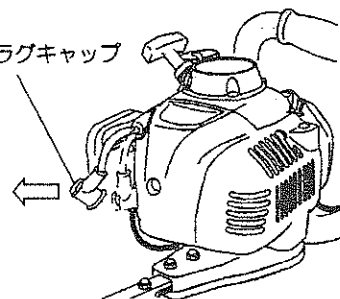
⚠ 警告

人が重大なケガを負う場合がありますので、必ず守って下さい。
禁止事項は、絶対にやめて下さい。

1. 次の場合は、エンジン回転を停止させ、点火プラグキャップを点火プラグより外し、刃物が停止してから行って下さい。

- ・各部の調整、点検、修理及び部品交換時
- ・刈刃にかみ込んだ枝等を取り除く時
- ・燃料給油時（エンジンが冷えてから行う）

点火プラグキャップ



2. 換気の悪い場所ではエンジンを運転しないで下さい。

- ・有害な排気ガスによって中毒の恐れがあります。

3. ヘルメット等、JIS等の規格に合格した保安帽を着用するとともに作業用手袋、防護メガネ・耳栓をつけ、作業靴を履いて下さい。

4. 長袖、長ズボンの作業服を着用して下さい。但し、袖、すそのだぶついたものは着用しないで下さい。

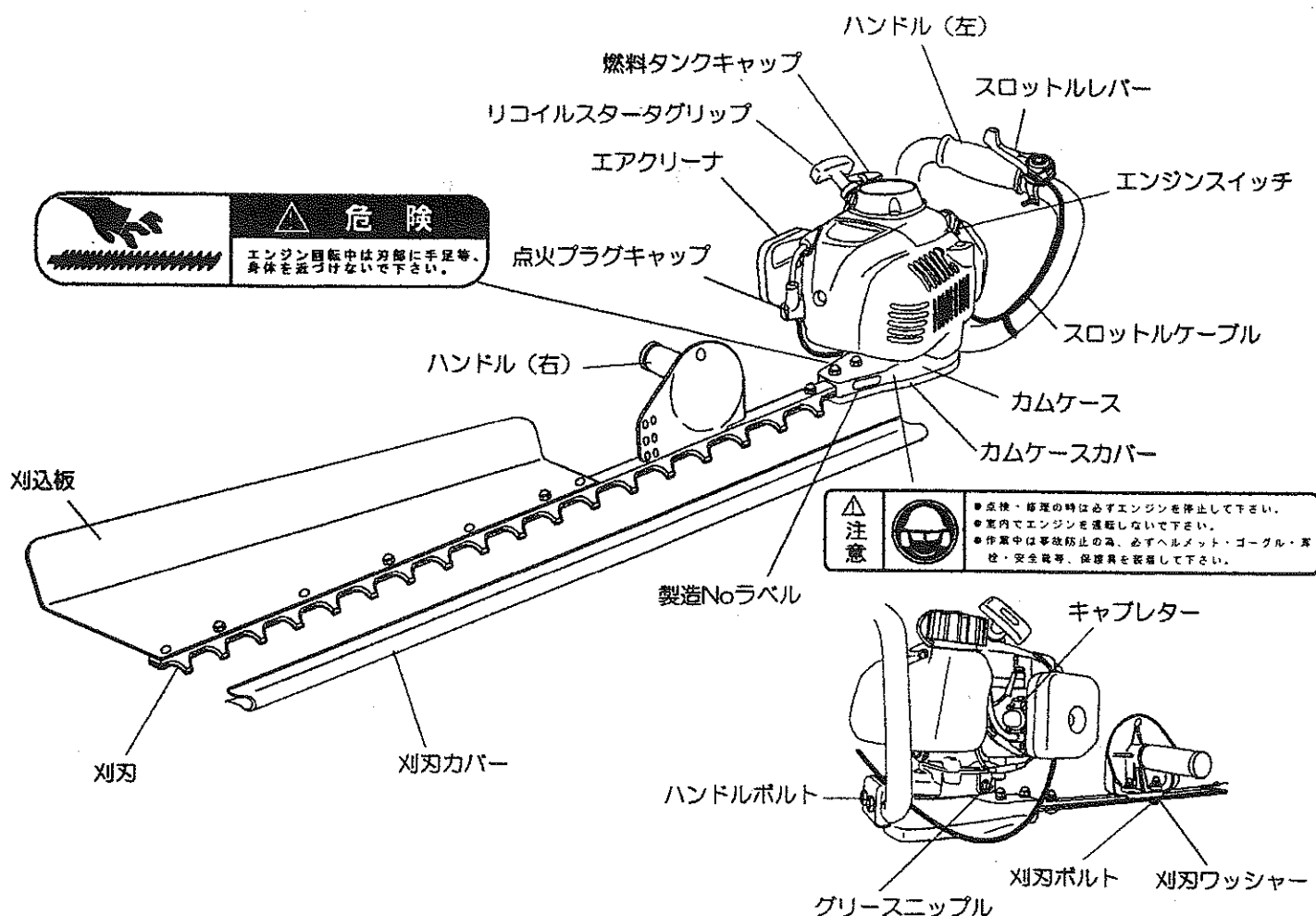
5. 疲れている時、身体の調子の悪い時は使用しないで下さい。

6. 夜間及び天候の悪い時は使用しないで下さい。

7. 燃料補給の際には、付近に火気のないことを確認した上で、こぼさないように行って下さい。こぼした時は、十分に拭き取ってください。

8. 使用後は、お子様の手の届かない、鍵のかかる所に保管して下さい。

2. 各部の名称及び危険・警告ラベル貼付位置



3. 仕様

型 式		HT-768S
エ ン ジ ン	エ ン ジ ン 型 式	TH23-DVX
	エ ン ジ ン 形 式	空冷2サイクルエンジン
	総 排 気 量 (cm ³)	22.5
	最大出力 (kW(PS)/rpm)	1.0 (1.3) / 7000
	燃 料 タ ン ク 容 量 (ℓ)	0.5
	気 化 器	ダイヤフラム式
	点 火 方 式	電子点火
	点 火 プ ラ グ	NGK BPMR6A相当
	使 用 燃 料	混合ガソリン (ガソリン50に対し2サイクル専用オイル1)
刈 刃	全 長 (mm)	750
	刃 ピ ッ チ (mm)	35
	往 復 回 数 (回/秒)	32 (エンジン回転数7000rpm時)
	方 式	片刃2枚摺動
トランスミッション	ク ラ ッ チ	乾式自動遠心クラッチ
	減 速 装 置	歯車一段減速
	刈 刃 駆 動	二連力ム駆動
	潤 滑 方 式	グリース潤滑
装備寸法 (L×W×H) (mm)		980×255×210
装備重量 (kg)		約5.8

※本仕様は改良の為予告なく変更する場合があります。

4. エンジン始動前の点検



警告

- ・点検は、安定した場所で必ずエンジンスイッチをOFF側にし、エンジンを停止させ、点火プラグキャップを点火プラグより外して行って下さい。



注意

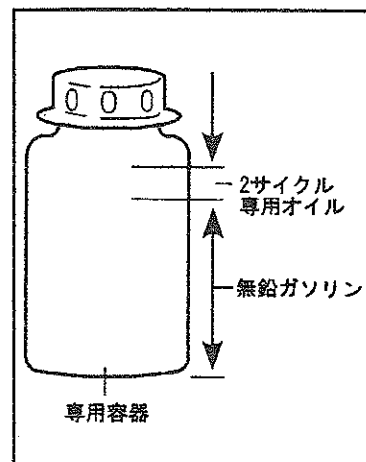
- ・2サイクルエンジンですので、燃料は無鉛ガソリン50に対し、2サイクル専用オイル1の割合で混合した燃料を使用して下さい。

1) 燃料

- ・燃料は2サイクル専用オイル混合ガソリンを必ず使用して下さい。
- ・混合比を間違えると、エンジン焼き付きの恐れがあります。

2) 燃料混合

- ・きれいなキャップ付容器に2サイクル専用オイル20mlに対して、無鉛ガソリン1ℓを入れて、よく振って混ぜ合わせて下さい。
- ・容器が汚れていたり、混合比が不適当ですとエンジン不調の原因となります。
- ・購入約2～3ヶ月経過後のガソリンもエンジン不調の原因となりますので使用しないで下さい。



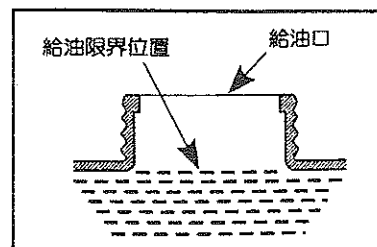
3) 燃料給油



警告

1. タバコ等周囲に火気がないことを確認のうえ行って下さい。
2. 必ずエンジンを停止し、完全に冷えたことを確かめてから行って下さい。
3. こぼさないように行って下さい。万一、こぼれた場合は完全に拭き取り、乾かしてからエンジンを始動して下さい。
4. 混合ガソリンは購入後約2～3ヶ月以上経過したものや異物を混合されているようなものはご使用にならないで下さい。エンジン不調の原因となります。作業に消費する量だけ燃料混合して下さい。
5. 給油後は、燃料タンクのキャップを確実に締め付けて下さい。
6. 粗悪燃料をご使用の場合における故障、クレームにつきましては保証対象外となりますのでご注意下さい。

- (1) 燃料キャップを外し、給油口の口元より少なめに補給します。
- (2) 燃料補給時はこぼさないように行って下さい。
万が一こぼれた場合は完全に拭き取って下さい。
- (3) 補給後、燃料キャップを確実に締め付けて下さい。



4) 各部の締め付けの点検



警告

- ・各部のネジ類の脱落や緩みがないか確認して下さい。
締め忘れ、脱落があるまま使用されますと、故障の原因となるばかりでなく重大な人身事故をまねきます。

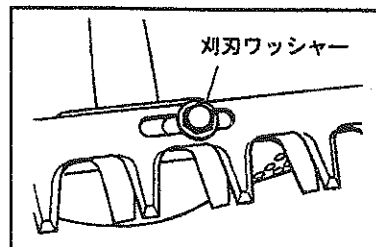
5) 刈刃すき間の点検

⚠ 注意

・刈刃の調整が強過ぎると刈刃が動かなくなることがあります。又、逆に弱過ぎると切れ味が悪くなり、枝や葉をかみ込み易くなります。

・本機は常に、良い切れ味を保ち、快適な作業をしていただけるように、刈刃上・下のすき間を調整する方式を採用しております。

調整の目安は刈刃ワッシャーが指で軽くまわる程度です。
刈刃ワッシャーの回りが悪い場合、ガタツキがある場合は、調整して下さい。(調整方法はP-7刈刃のすき間調整の項を参照)



5. エンジンの始動・停止

⚠ 警告

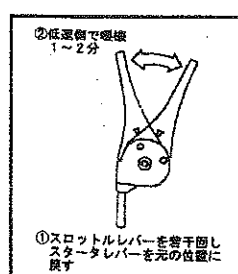
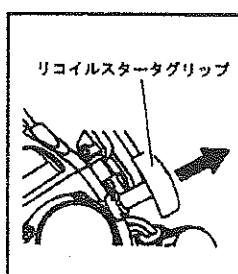
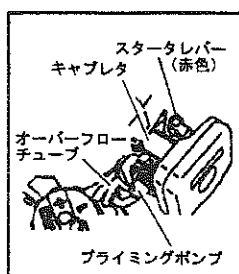
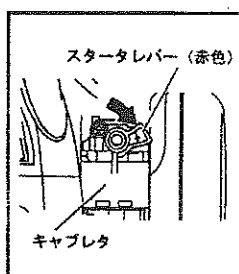
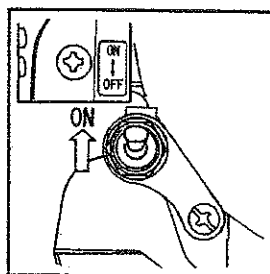
・排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないで下さい。一酸化炭素によるガス中毒になる恐れがあります。

⚠ 注意

・エンジンの取扱いについては、別紙のエンジン取扱説明書を必ずお読み下さい。

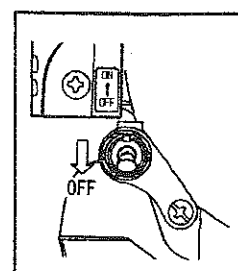
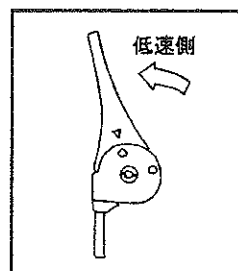
1) 始 動

- (1) 本機を始動される時は、燃料タンクに指定の燃料が入っているか確かめ、エンジンスイッチを“ON”にして、スロットルレバーを“始動”(一杯閉じた)位置にして下さい。
- (2) スタートレバーを矢印方向へ軽く止まる位置(始動)にする。
(酷暑時、エンジンが暖まっている時にはこの作業は不要です。)
- (3) キャブレタのプライミングポンプをオーバーフローチューブから燃料が流れ出るまで指でゆっくり数回押して下さい。
- (4) リコイルスタータグリップを素早く引張る。(このリコイルスタータは“引き力”を低くした構造なので軽い力で引けます。)引いたグリップはその位置から手を離さないで、静かに戻して下さい。
- (5) エンジンが始動したらスロットルレバーをまわしてスタートレバーを元(運転)の位置にします。スタートレバーはスロットルレバーを高速側に回しますと自動的に元(運転)の位置になります。
- (6) スロットルレバーを低速側に戻し、負荷をかけずに1~2分位暖機運転を行います。



2) 停 止

- (1) エンジンの停止は、高速回転をさせ、まず、スロットルレバーを“低速”の位置に戻し、1~2分位運転します。
- (2) エンジンスイッチをOFF側にして下さい。



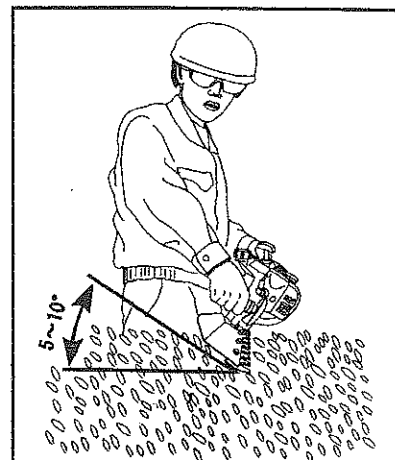
6. 作業方法

⚠ 危険

・次の作業は必ずエンジンスイッチをOFF側にし、エンジンを停止させ、点火プラグキャップを点火プラグより外してから行って下さい。

- ・刈刃の点検やかみ込んだ枝や葉を取り除く時
- ・燃料の給油時
- ・各部の組立、調整時

- (1) 刈刃の刃付け部を $5^{\circ} \sim 10^{\circ}$ 程度下方へ傾斜させ、刈込み面を掃くようにして作業しますと能率的です。
- (2) スロットルレバーを低速側から高速側にまわして下さい。
- (3) エンジンの回転は必要以上に上げないで刈込みに合わせた回転でご利用下さい。
- (4) エンジンの燃料補給時には、刈刃の摺動部にもオイル又はマシン油を注油して下さい。樹木を枯らす恐れがありますので注油量には注意して下さい。
- (5) 作業時にエンジンの回転が下がって作業ができない場合は、一度、刃を浮かしてエンジンの回転の回復後、再度作業を行って下さい。



7. 点検・整備・調整

⚠ 警告

- ・各点検・整備・調整は事故防止の為、必ず行って下さい。
- ・必ずエンジンを停止させ、点火プラグキャップを点火プラグより外してから点検・整備・調整を行って下さい。

点検項目		作業時間	作業毎	20時間 作業毎	50時間 作業毎
各部の取付け		点検	○		
本体	刈刃のすき間	点検 調整	○		
	刃先の摩耗	点検	○		
	ギヤー・カムケースグリース	点検 補充			※1 ○
エンジン	スロットルケーブル	点検	○		
	タンクキャップ	点検 清掃	○		
	エアクリーナ	点検	○		
		清掃		※2 ○	
	燃料フィルタ (ろ過網)	点検 清掃		○	
	点火プラグ	点検 清掃			○

- ・但し本書に指示がある場合は、エンジンを始動させて、その機能を確認して下さい。
- ・エンジン部分については別紙のエンジン取扱説明書をご覧下さい。

※1 初回 20 時間使用後、それ以降は 50 時間使用毎に補充して下さい。

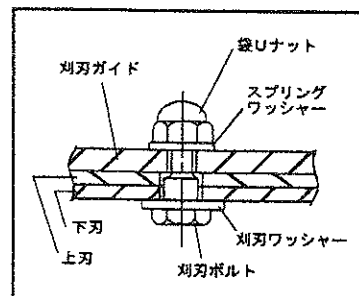
※2 特にホコリの多い場所で使用した場合、より頻繁に行って下さい。

⚠ 注意

- ・本機の修理は、必ずお買い求めの販売店へお申し付け下さい。
本機に異常を感じた時は、ただちに作業を中止して下さい。
当社指定のサービスマン以外、取扱説明書の説明以外の分解修理及び改造は行わないで下さい。
- ・ゴールデンスター純正部品、付属品を使用して下さい。
本機指定の純正部品以外、使用しないで下さい。

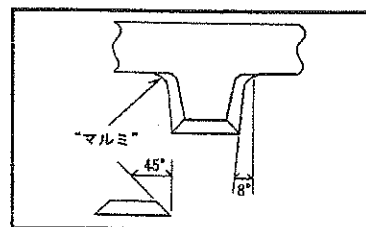
1) 刈刃のすき間調整

- (1) 調整作業は必ず手袋を着用して刈刃に注意して下さい。
- (2) すき間調整は、刈刃ボルトを一杯に締め込んだ位置より、半回転程度戻した位置で袋ナットを締め付けます。
- (3) この場合、刈刃ワッシャーが指で軽く回る程度にして下さい。
- (4) 刈刃ワッシャーの回りが悪かったりガタツキが多い場合は、再度調節を行って下さい。



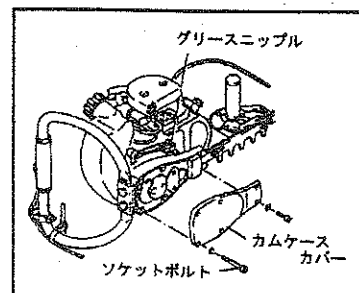
2) 刃の研磨

- (1) 刃は常に鋭利な状態に保って下さい。
万一、刃こぼれ等がありますと、作業能率が悪くなるだけでなく、エンジンにも悪影響を与えます。
- (2) 刃を研磨する場合は、必ず防護メガネ、手袋を着用し、ハンドグラインダー・砥石等を使って根元に“マルミ”を残すように行って下さい。



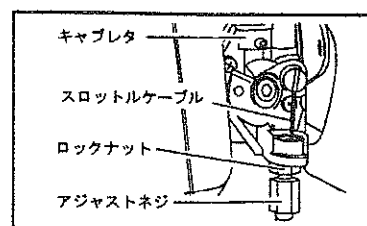
3) グリースの補充

- (1) グリースの補充は初回20時間使用後、それ以降は50時間使用毎に必ずギヤケース及びカムケースにグリースを補充して下さい。
- (2) ギヤケースへの注入は側面のグリースニップルより補充します。
- (3) カムケースへの注入はカムケースカバーを取り外してカムケースの3～4割程度入れて下さい。グリースの注入が多すぎると刈刃摺動部より多少のグリースが流出することがあります。
- (4) グリースの補充後はカムケースカバーを完全に取り付けて下さい。
- (5) グリースは専用グリースをご使用下さい。又、市販品を使用の場合は極圧添加剤入りリチウム系グリースNo2とご指定下さい。



4) スロットルケーブルの調整

- ・スロットルケーブルの遊びが0.5mm～1mm程度になるようにキャブレタ上部のアジャストネジの位置を決め、ロックナットにより確実に固定します。

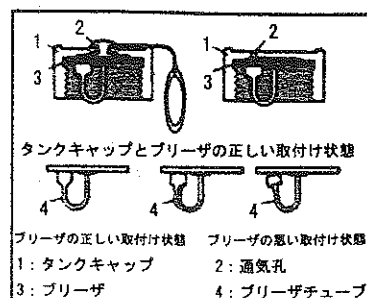


5) タンクキャップの点検と清掃

- ・タンクキャップには通気孔が付いています。この通気孔が塞がると燃料がキャブレタへ流れなくなりエンジンが始動不能や回転不調となりますので点検、清掃して下さい。
点検、清掃後は正しい取り付けでなければタンクキャップから燃料が漏れることがあります。

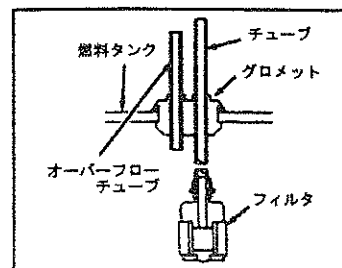
正しい取り付け状態

- ・タンクキャップ内側溝部へブリーザーがきちんとはまっている。
- ・ブリーザーチューブがねじれなくきちん取り付けられている。



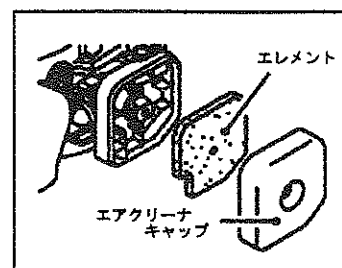
6) 燃料フィルタの点検と清掃

- ・燃料タンク内の燃料パイプ先端についている燃料フィルタの汚れを点検して下さい。汚れがひどい場合は交換して下さい。



7) エアクリーナの点検と清掃

- (1) エアクリーナキャップの取り付けネジを緩めてエアクリーナキャップとエレメントを取り外して下さい。
- (2) エレメントを手で持って軽く叩くか、弱い圧搾空気を吹き付けて埃や汚れを落して下さい。

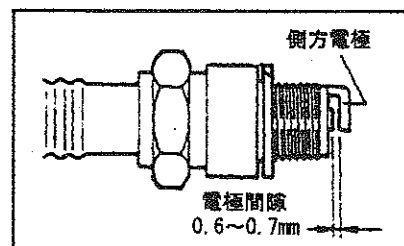


8) 点火プラグの清掃

⚠ 注意

- ・電極が汚れたり、電極の隙間が不相当ですと、完全な火花が飛ばなくなり、エンジン回転が不均一になり、エンジン不調の原因となります。
- ・点火プラグの清掃・調整はエンジンが冷えてから行って下さい。
- ・点火プラグの取り付けは、ネジ山をつぶす恐れがありますので、はじめは指で軽くねじ込み（5～6山）、次ぎにプラグレンチで確実に締め付けて下さい。

- ・点火プラグキャップを点火プラグより外し、プラグレンチでエンジンより取り外します。
- ・点火プラグに付着したカーボン等をプラグクリーナ、もしくは、ワイヤーブラシ等で落として下さい。
- ・電極隙間を0.6～0.7mmに調整します。

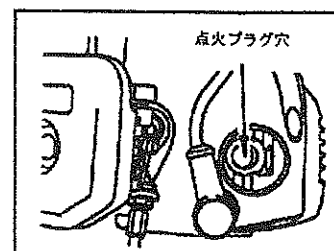


8. 長期間保管する場合

⚠ 危険

- ・燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
- ・燃料を抜くときは、換気のよい場所で行い、火気を絶対に近づけないで下さい。
- ・燃料はこぼさないように抜いて下さい。

- (1) 下記の手順で燃料を抜きます。
 - ・燃料タンクの燃料注入口より抜きます。
 - ・気化器内の燃料はプライミングポンプを押して抜いて下さい。
- (2) エンジンを始動し、アイドリング状態で運転します。エンジンは燃料が自然に尽きて停止します。
- (3) リコイルスタータグリップをゆっくり引き、重くなった所で止めて下さい。
- (4) 交換の必要な部品は交換し、各部のボルト・ナットを点検し、緩んでいましたら確実に締め付けて下さい。
- (5) 点火プラグを外し、エンジンオイルを約0.5ml注入し、リコイルスタータの始動ノブを静かに2～3回引き、点火プラグを締め付けて下さい。
- (6) エアクリーナを清掃して下さい。
- (7) さびやすい部品にグリースかエンジンオイルを塗布して下さい。
- (8) 本機及びエンジンに付着したゴミ等はきれいに清掃して下さい。
- (9) 刈刃部は防護具（刈刃カバー）で完全に覆って下さい。
- (10) カバーをかけ、湿気やホコリの少ない風通しの良い場所に保管して下さい。
- (11) 子どもの手がとどかない鍵のかかる場所に保管して下さい。



9. 本機の異常と対策

本機に異常があれば、下表より原因を探り適切な対策を施して下さい。

状 態	原 因	対 策
エンジンが始動しない。	①燃料がない。	燃料を補給する。
	②エンジンスイッチが“OFF”側になっている。	エンジンスイッチを“ON”側にする。
	③点火プラグから火花がでない。	点火プラグの清掃・調整もしくは交換。
	④エアクリーナの詰まり。	エレメントの清掃。
	⑤燃料の吸いすぎ	一旦間をおきスタータレバーを“運転位置”にしてから再始動操作を行う。
エンジンの出力不足及び回転不安定。	①燃料系の詰まり。	清掃する。
	②エアクリーナの詰まり。	エレメントの清掃もしくは交換。
	③点火プラグの汚れ。	点火プラグの清掃・調整もしくは交換。
	④刃調整不良。	刈刃のすき間調整を行う。
	⑤刈刃に木片等を挟み込んでいる。	刈刃に挟み込んだ木片等を取り除く。
エンジンがオーバーヒートしている。	①冷却空気取入れ口やシリンダーファン部にゴミが付着している。	清掃する。
	②点火プラグ不良。	交換する。
	③エアクリーナの詰まり。	清掃する。
本機が異常振動する。	①ギヤーケースもしくはエンジンを取付けているボルトが緩んでいる。	ボルトを確実に締め付ける。

※表は簡単な異常に対する対策しか書いていませんので、わからない点や、複雑な異常はお買い上げいただいた販売店に相談して下さい。



製造
番号

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上ご不明な点があった場合には、ご遠慮なく
お買い上げの販売店にお問い合わせください。

本機を末長くご愛用いただきますようよろしくお願いいたします。

本 社

兵庫県小野市本町10番地 〒675-1372
TEL (0794) 62-2391代 FAX (0794) 63-5211

東京支店

東京都中央区日本橋小伝馬町8番3号 〒103-0001
TEL (03) 3664-8811代 FAX (03) 3664-8860

九州支店

佐賀県鳥栖市養父町473番地2 〒841-0005
TEL (0942) 85-9277 FAX (0942) 84-2700

新潟・三条出張所

新潟県三条市神明町2番1号 〒955-0063
TEL (0256) 32-9971 FAX (0256) 32-9671

KINBOSHI

Corporation

園芸機器総合メーカー

キンボシ 株式会社

3560-0711Z